江蘇
有你会更美
Charm of Jiangsu
More beautiful with you
江蘇
旅行
旅のアイデアが
盛りだくさん！
中国 | 江蘇
旅のアイデア
が盛りだく
さん！
江蘇省の世界遺産 * 歴史博物旅行、歴月からの愛を通じて * 無形文化遺産に満ちた多彩な江蘇生活 *
江蘇省文化・観光庁
JIANGSU PROVINCIAL DEPARTMENT OF CULTURE AND TOURISM

次へ →

蘇州
江南
修学
旅行
手帳

旅のアイデアが
盛りだくさん！

# 江蘇修学旅行手帳

## 旅のアイデアが盛りだくさん！


江蘇省の世界遺産

○明孝陵探古……02
○蘇州古典庭園……04
○中国大運河（江蘇省区間）……06
○中国黄（渤海）渡り鳥生息地（第1期）……08

歴史博物旅行、歳月からの愛を感じて

○南京博物院……11
○蘇州博物館……12
○蘇州御窯金磚博物館……13
○南通博物苑……14
○中国東海水晶博物館……15
○南京明城壁遺跡……16
○南京大報恩寺遺跡公園……17
○蘇州寒山寺……18
○無錫影視基地……19
○宿遷項王故里……20
○徐州漢文化観光地……21

無形文化遺産に囲まれた多彩な江蘇生活

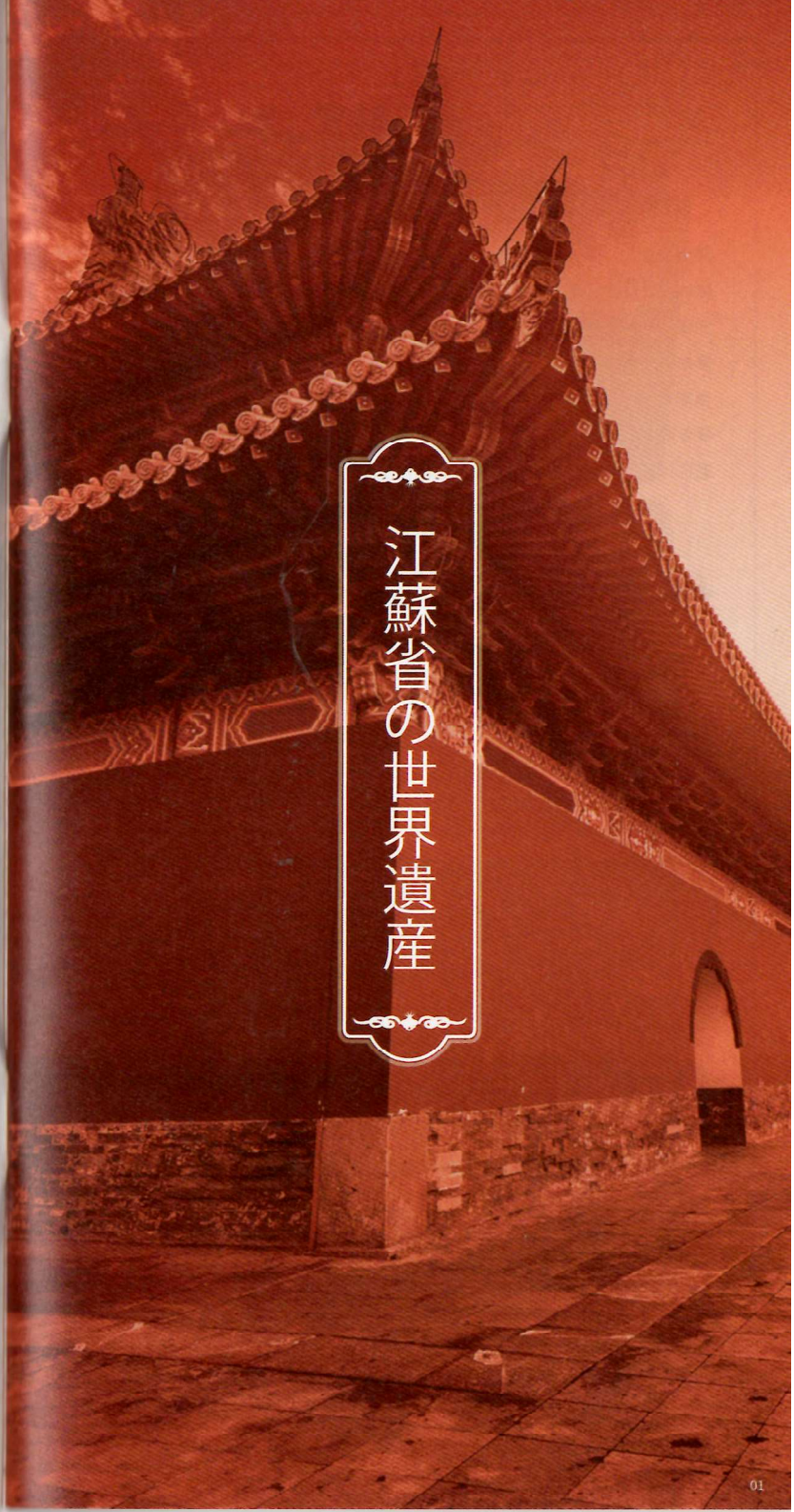
○昆曲……23
○古琴……24
○蘇州端午の風習……25
○江蘇織染刺繍技術……26
○蘇州香山帮伝統建築造営技術……30
○揚州彫版印刷……32
○江蘇糸技術……34
○洋河酒伝統醸造技術……36
○鎮江恒順香酢醸造技術……38

付録

## はじめに

こんにちは。この手帳を開いてくださって嬉しい。あなたと中国の江蘇という地域との縁はここから始まるんだ。江蘇省は中国の東部に位置し、美しい山川と豊かな水系が広がっている。豊かな平野、川、湖、沢が、温かくて洗練された江蘇文化を育んでいる。ここには13の国家歴史文化名城があり、多くの人文資源が埋蔵されており、江蘇文化の魅力と趣きにあふれている。この手帳を使って一緒に旅をしよう。江蘇省の四つの世界遺産の中で古代の遺跡や自然の美しさを感じ、代表的な博物館を訪れて、江蘇の深い文明を体験し、多彩な無形文化遺産の中で職人たちの独自の創造的な思考を味わおう。江蘇省には数多くの物語があり、ここと日本との深いつながりを発見することができる。手帳と一緒に、江蘇省の数え切れないほどの美食も楽しむことができるよ。

早速、江蘇省との奇遇を手帳に記録しよう～手帳には素晴らしい瞬間や心に触れる感覚を綴ることができる。この手帳は江蘇省を知る上での"友達"となり、最も豊かな思い出を残すことを願っている。



# 江蘇省の世界遺産

# 明孝陵 探古!!

紫金山南麓には、風水の宝地として知られる場所に「明孝陵」と呼ばれる陵墓がある。この陵墓は、中国の明朝皇帝である朱元璋とその皇后が合祀された場所である。なぜこの墓が世界中で注目され、「世界文化遺産」に登録されたのか、一緒にその謎を解き明かしよう！一緒に探訪に行こう！

陵墓に到着する前に、まずは600メートルの神道を通り抜ける。神道の両側には珍しい獣類の石像が立っている姿やひざまずいている姿、文臣や武将の石像もある。これらの石像は長い年月を経て陵墓を守り続けてきた。霊床全体は古い名木に覆われ、閑静で古風な雰囲気が漂っている。朱色の門をくぐると、まるでタイムスリップしたかのように古代の宮廷に戻ったような気分になる。明孝陵博物館に訪れ、文化財と対話することで、この古い墓について深く理解することが重要である。明孝陵建築群の中でも特に特別なのは方城明楼である。これは明孝陵の最も特徴的な建築様式の一つであり、その高さは古代の知恵と技芸に感嘆を禁じ得ない。

石像のある神道は「南京で最も美しい600メートル」と称されており、見逃せないでね~

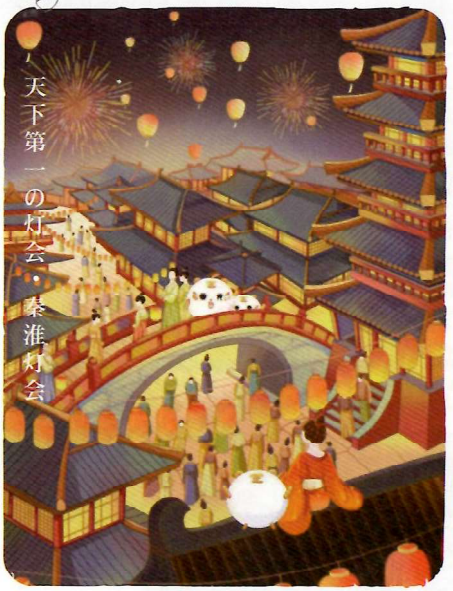
AIR MAIL Tips AIR MAIL

明朝の皇帝 朱元璋

霊前の石像路神道

## 番外

朱元璋は南京に世界文化遺産だけでなく、自らが「延長版」と呼ぶ元宵灯会を創った。毎年の元宵節の祝賀時間を10夜に延長し、これは中国史上最も長い期間の灯祭となった。



天下第一の灯会：秦淮灯会

質問

あなたが理想とする最も詩的な住居はどんな様式だろう?

# 蘇州 古典庭園

蘇州の歴史的な名城にある古典庭園は、中国庭園の理念である「咫尺之内再造乾坤」を巧みに具現化している。これらの庭園は11世紀から19世紀にかけて建設され、優れた芸術技法によって山水の風景に溶け込んでいる。中国の文化は自然を参考にしながらも超越した深遠な境地を示し、中国庭園を世界の庭園の起源とした。

それぞれの庭園は、賑やかな市街地に位置しながらも静寂であり、文人たちが大地に描いた絵のようである。水の流れや珍しい石、芭蕉の植えられた廊下や書斎、一部が空いた壁や窓、草花、詩の刻本などが自然に調和し、心の中に桃源郷を築き上げている。庭園内で散策し、鑑賞することは詩を読むかのようであり、絵を鑑賞するかのようであり、一歩一歩が広がっていく絵巻物のようである。

## 世界の庭園の母

拙政園は蘇州四大名園のひとつであり、園内には江南四大才子の一人である文征明が手植えしたフジの木が残されており、四百年にわたって毎年花が咲き続けている。留園は珍しい石で知られており、網師園の構成は緻密で美しい。滄浪亭は最も古い建築物であり、芸圃の水亭と回廊は優雅な雰囲気がある。それぞれの庭園には異なる魅力がある。また、世界的な建築家である貝聿銘の祖宅である獅子林にも訪れることができ、獅子の形をした石で作られた迷路の中で鬼ごっこの楽しさを体験することができる。

日本庭園研究会の会長である吉河功氏は、日本の造園の大家として知られており、蘇州庭園には非常に情熱を注いでいる。彼は30年間に66回も古典庭園を訪れ、20万枚以上の作品を撮影した。これによって彼は本場の「蘇州庭園の専門家」となった。

AIR MAIL Tips AIR MAIL

蘇州の古典庭園は約2000年以上の歴史を持ち、完全に保存されているのは108箇所ある。その中でも、拙政園、留園、網師園、環秀山荘、滄浪亭、獅子林、芸圃、耦園、退思園の9つの庭園が『世界遺産リスト』に登録されている。

質問

世界で最も早い時代に作られた、最も距離が長い人工運河を知っている？ 答え：中国大運河

# 中国大運河（江蘇省区間）

大運河は、文化遺産として存在し、北から南へ江蘇省の徐州、宿遷、淮安、揚州、鎮江、常州、無錫、蘇州の8つの地域と都市を流れ、22の遺産点を残している。運河文化は、既に両岸都市の歴史の一部として存在している。

**揚州は大運河の起点となる都市**である。春秋時代には呉王夫差が邗溝を発掘し、隋煬帝はそれを基礎にして全線の大運河を開削した。そのため、揚州の古運河は全体の中でも最も古い部分である。揚州の中国大運河博物館に入ると、中国大運河の過去から現在までを探求することができる。

商人たちが集まる古い城市である蘇州もまた大運河が発展した都市である。古運河の美しさを間近で感じるためには、船での観光が最適で、特に平江路への訪問をおすすめする。そこは蘇州古城の特色を最も代表する場所で、ボートに乗って平江川を渡り、小さな橋の下を通り、真っ白な壁に黒い瓦が映える光景を見ることで、江南地方ならではの風景を存分に楽しむことができる。ゆっくりと平江古街を散策しながら、蘇州碑刻博物館に立ち寄り、宋代の最も古い都市地図である「平江図」を探すこともおすすめ。

無錫における大運河の特徴的なエリアとして、水弄堂がある。大運河はゆっくりと流れながら、清名橋歴史文化街区を通り抜ける。河岸に建つ住宅は、古い建築様式を十分に表現しており、その風格が魅力だ。清名橋から運河を見下ろすと、月と橋の倒影が美しく重なり、「双月図」という風景が広がる。この素晴らしい瞬間をぜひ記録しておいてくださいね～

運河は淮安の賑やかな中心市街地を通り抜けており、千年以上にわたる運河船便の輸送方式は淮安の豊かな文化の蓄積の一端を示している。里運河文化回廊の清江浦観光地を散策すると、歴史的に河道輸送で栄えた都市の魅力をより深く知ることができる。

河道輸送によって栄えた古い街並みとして、宿遷の皂河古鎮、徐州の窯湾古鎮、鎮江の西津渡古街、常州の古運河南大街がある。これらの古い街並みには、運河時代の古代遺跡が数多く残されている。ゆっくりと散策すると、運河沿いの生活を存分に感じることができ、素朴な生活の息吹に感動することだろう。

# 中国黄（渤海）渡り鳥生息地

第1期

江蘇省黄海沿岸の近海浅瀬は、中国沿岸に特有の地形景観であり、世界で唯一無二の放射状の大型海洋潮流砂脊椎群を発育させている。この地形によって形成された海洋湿地生態系は、多くの希少な動植物にとって理想的な生息地を提供している。広大な1万平方キロメートルを超える潮間帯湿地は、世界最大の絶滅の危機に瀕する鳥類の休息地となっており、またヘラジカの再野生化においても第一の選択地となっている。

2019年、塩城にある中国黄（渤）海の渡り鳥生息地（第1期）が「世界遺産リスト」に登録された。

TIPS

## 条子泥湿地

毎年秋には、約200種類もの渡り鳥が数百万羽集まり、遠い北極海岸の凍原地帯から条子泥灘涂湿地にやってくる。彼らは食物を探し、エネルギーを補給した後、次に東南アジア沿岸に飛び、冬を過ごす。この中にはズグロカモメ、カラフトアオアシシギ、ダイシャクシギ、クロツラヘラサギ、オバシギなどが含まれており、絶滅の危機に瀕しているヘラシギの個体数の90%以上がここで生息している。条子泥湿地はしばしば「鳥の国際空港」と称されている。一緒に湿地を訪れて、これらの愛らしい鳥たちに会おう。

**学名**：ヘラシギ
**ニックネーム**：スプーン
**特徴**：平たくて長い黒いくちばしを持ち、スプーンのような形状だ。体長は14～16センチで、非常に小さく、体は丸みを帯びている。
**生活環境**：凍原の沼沢地や草地、湖、渓流、池などの水域の岸辺に生息する。
**好きな食べ物**：昆虫や昆虫の幼虫、甲殻類などの小型無脊椎動物を好んで食べる。
**絶滅危惧度**：極度絶滅危惧

## 塩城大豊麋鹿（シフゾウ）国家級珍鳥自然保護区

この広大な条子泥湿地には、シフゾウという珍しい動物も生息している。シフゾウは中国特有の種であり、千万年にわたる古い神話的な物語が存在する。大豊シフゾウ保護区という純粋な土地には、2000種類近くの野生動植物がおり、その中には30種類以上の国家級保護動物も含まれている。ここは原始的で神秘的な自然王国を形成している。この地域には世界最大のシフゾウ遺伝子バンクも設立されている。鶴鳴鹿舞、群鹿競合、鹿王争霸など、この秘境の生態系では、原始的な生命力が溢れている。

毎年5月から6月にかけて、春と夏が入れ替わる時期には、鹿王争霸コンテストが壮大に開催されますので、ぜひ見逃さないでください。

AIR MAIL Tips AIR MAIL

## 塩城丹頂鶴自然保護区

丹頂鶴は「東方の仙鶴」と称され、純粋で剛直な精神を象徴し、幸福や吉祥、長寿の象徴とされている。中国の歴史では、一等の貴重な鳥として公認されている。塩城丹頂鶴自然保護区では、この珍しい鳥を間近で観察することができる。丹頂鶴は11月から翌年の3月まで滞在し、冬の特定の時間帯には自由に飛び回る仙鶴の群れを見ることができる。これは塩城を訪れる冬ならではの風景だ。

**Tips**

丹頂鶴訓練飛行センターでは、丹頂鶴の壮麗な飛翔を見ることができる。また、丹頂鶴と仲良く写真を撮る機会もあるので、ぜひ訪れてみてください。

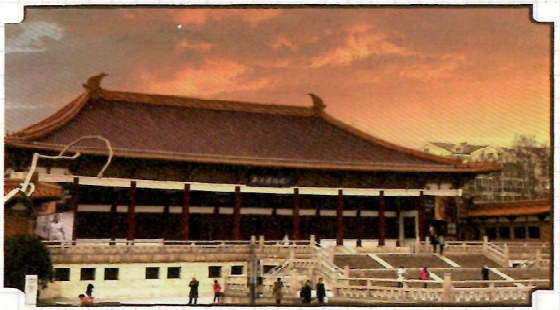
## 物語番外編：

中国では「真実の物語」という歌が全国的に有名になり、多くの人々の心を打った。この歌は、灘涂湿地で丹頂鶴を守るために命を捧げた女性の物語である。

35年前、塩城沿海灘涂自然保護区で丹頂鶴の飼育員を務めていた徐秀娟という女性がいた。ある日、2羽の丹頂鶴が夜になっても巣に帰らなかったため、事故が起こるのを恐れて徐秀娟は2泊2日もの間、彼らを探し続けた。残念なことに、彼女は探索中に沼地に滑り込み、命を落としてしまったのだ。この23歳の女性は、丹頂鶴を守るために自らの命を捧げたのだ。この悲しい物語は、塩城の人々が代々生態を守り続けてきた姿勢を象徴しており、丹頂鶴が美しい空を舞う姿を目に、人と自然のつながりと感動を共有する機会を与えてくれている。

歴史博物旅行、
歳月からの愛を感じて

# 南京博物院



南京博物院は、中国三大博物館の一つであり、博物館界で人気があると言える。中国各地には多くの博物館が建てられているが、「博物院」と呼ばれることは少なく、その中で南京博物院は最も優れている。

南京博物院には、歴史館、デジタル館、民国館、芸術館、特展館、無形遺産館の6つの展示館が設置されており、所蔵品は非常に豊富である。現在、所蔵品の数は**43万点（セット）**に達しており、貴重な文物の数は故宮に次いでおり、これらは歴代王朝が所有した傑作であり、また優美美術品でもある。

# 蘇州博物館

蘇州を本当に知りたいのであれば、蘇州博物館への訪問は素晴らしい選択だ。蘇州で最も有名な園林である拙政園の隣に位置し、有名な華人建築家である貝聿銘氏が設計。グレーと白の組み合わせは上品かつ詩的であり、この博物館自体が「芸術品」として注目されている。

蘇州博物館の所蔵文化財は**4万点**以上あり、多くの**「呉地遺珍」**を網羅し、呉地文化を最も体現する蔵館だ。会場の隅々には特別な造形が隠されており、窓や光の影が投影する美しさに深く魅了される。これらは蘇州博物館の魅力の一部であり、まさに注目に値する。

蘇州

# 御窯金磚博物館

蘇州博物館は東方庭園芸術の美しさを代表する妙齢の女性のようであり、一方、御窯金磚博物館は豪放で造形が特徴的な男性のようである。

博物館内には各年代の銘文が刻まれた千枚以上の金磚が展示され、明、清王朝を含む中国の数百年の歴史を見る事が出来る。また、館内の生産用の部屋では、御窯金磚の製作過程も展示されている。さらに、文創体験館では、泥をこねたり切ったり塗ったりする匠の体験コーナーがあり、金磚に好きな王朝名を印刷したり、自分の名前を入れたりと、指からも金磚の制作技術と歴史の流れを感じることが出来る。

**TIPS**

**「御窯金磚」**とは、古代に皇居のために作られた高品質の煉瓦のことで、材質が繊細で、構造が緊密で、叩くと金属の音がするので、「金磚」と呼ばれている。

# 南通博物苑

江蘇省に**中国初の公共博物館**があるって知っている？実は南通博物苑なんだ。南通博物苑は1905年に建設が始まり、中国の近代実業家であり教育家でもある南通の先賢、張謇によって設立された。張謇は1903年に日本を訪れ、実業や教育の視察を行った。その際、補完的な役割を果たす博物館としてのアイデアに強い印象を受け、帰国後は積極的に博物館の設立を提案した。百年の歳月を経て、博物苑は数々の試練を乗り越え、所蔵品も豊富になってきた。

今では、南通博物苑は古い建物と新しい建物が調和し、趣のある庭園になっている。所蔵品も非常に充実しており、現在約5万点の所蔵品がある。その中には南通地方の風土や民俗品や、さまざまな職人の道具などもある。とても興味深いので、ぜひ一度足を延ばしてみよう。

**番外**

張謇を記念して、博物苑内には張謇旧居が残され、内部復元が行われた。毎年4月になると、旧居門前の百年藤の花が満開になり、多くの観光客が訪れる。

# 中国東海水晶博物館

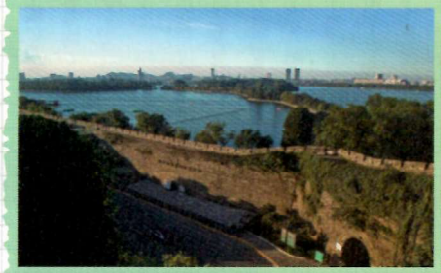
世界中、水晶があるところに東海人あり！江蘇省連雲港市の東海県に「世界水晶の都」あり！

ここの水晶の埋蔵量、品質はすべて中国で第1位であり、また**中国の規模が最も大きく、等級も最も高く、唯一の水晶をテーマとする中国東海水晶博物館**を建設した。館内には**1000点**以上の所蔵品が展示されている。これらの所蔵品は東海やブラジル、ウルグアイなど世界各地で最も品質が高く、細工が精巧な天然水晶や水晶工芸品で構成されており、水晶が形成する奇抜な景観を実演している。博物館は水晶世界のきらきらとした美しさと無限の魅力を鑑賞者に示している。

# 南京 明城壁遺跡

南京明城壁は紀元1366年に建造が始まり、宮城、皇城、京城、外郭の4重の城壁で構成され、**世界最長かつ規模最大であり、保存の面でも原真性が最高の古代城壁**である。数百年の経過の中で、宮城、皇城、外郭の3つの城壁は破壊され、ただ京城壁のみがしっかりと残っていた。

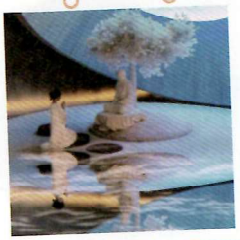
伝統的な正方形の古代首都とは異なり、南京明城壁の形状は自由で、自然の山水の間にくねくねと伸びており、その美しさと革新性が際立っています。中華門瓮城、石頭城、神策門、台城を一周し、実際に城壁に近づいて触れると、南京の歴史が刻んだ印をより一層感じることができる。



# 南京大報恩寺遺跡公園

南京中華門の城壁の下に隠された仏教の聖地、大報恩寺遺跡公園から、静かな心の旅が始まる。

大報恩寺内にある**瑠璃宝塔**は、世界建築史上の奇跡であり、中世には「世界七不思議」の一つとして称されていた。その「口」字型の博物館造形は、千年以上の歴史を融合である。ここでは、大報恩寺跡の千年地宮や貴重な画廊だけでなく、地宮から出土した石函、金や銀で作られた棺椁、七宝阿育王塔など、世界的に貴重な国宝を鑑賞することができる。



# 蘇州寒山寺

**『楓橋夜泊』**という唐代の詩は知っているだろうか。この詩の中で最も有名な「姑蘇城外の寒山寺、夜半の鐘声客船に到る」という一節は、蘇州の寒山寺の名声に与えた影響は広範かつ深遠だ。この詩は淡い憂愁を漂わせており、日本の物哀や幽玄の美学とも相性が良く、多くの日本人が寒山寺に特別な思いを抱く要因ともなっている。

## 楓橋夜泊

張継

**月落ち烏啼いて霜天に満つ**
**江楓漁火秋眠に対す**
**姑蘇城外の寒山寺**
**夜半の鐘声客船に到る**

毎年大晦日の夜、寒山寺では年越の鐘のイベントが開催され、鐘を108回叩くことで108の煩悩を解消するという風習が現在も続いている。中国の大晦日の夜に寒山寺を訪れ、千年以上の歴史を持つ鐘の音は、あなたにはどのような感動を与えるだろうか？

# 無錫影視基地

三国志は日本人にとってとても馴染みのある物語だろう。横山光輝氏は『三国演義』という本を元に、漫画『三国志』を創作し、歴史の時間を超えた三国の歴史を再び私たちに見せてくれた。

**無錫影視基地**にある**三国城**は、古代戦国時代にタイムスリップしたかのような感覚を味わい、再び英雄の息吹を感じさせる。劉備、関羽、張飛の三兄弟が同盟を結んだ桃園や、一代の英雄である曹操の戦船、諸葛亮が東風を借りるために建てた七星壇など、三国城内をゆっくりと散策すると、様々な歴史上の重要な出来事が目の前に現れるかのようだ。

**水滸城**は宋代の建築様式を主に取り入れており、華麗な宋皇居、美しい樊楼、賑やかな翠仙楼、堂々とした太尉府などが再現され、宋代独特の歴史的背景や豊かな自然風景、風俗儀礼が見事に表現されている。

宿遷

# 項王故里

宿遷は**西楚覇王項羽**の故郷で、宿遷項王故里に来て、飛檐石基、厳かで立派な様子、千年を超える重厚な歴史感を身につけてきた。

宿遷は西楚覇王項羽の故郷であり、宿遷項王故里を訪れると、飛檐石基が立ち並び、厳かで立派な様子、千年を超える重厚な歴史感を体感させてくれる。観光地を巡ると、項府や項園、将署、項羽旧居、項家祠堂など、楚漢遺風が随所にあり、楚の旗が翻る城楼に登ったり、項羽が白ら植えたといわれる千年のエンジュの木の下で祈りを捧げたり、『鴻門演義』や『覇王出征』などの大型公演を楽しんだりすることができ、西楚覇王の伝奇的な人生を存分に味わうことができる。また、楚国の衣装に着替えてみたり、投壺ゲームを体験したり、時を越えた境地を感じて、楚国の濃い趣を楽しむこともできる。

徐州

# 漢文化観光地

徐州漢文化観光地は、中国最大の漢文化を特色とするテーマパークである。ここでは**「漢代三絶」である漢墓や漢代兵馬俑、漢代画像石**などが展示されており、特に西漢彩色兵馬俑は、徐州漢代文化の象徴として知られ、4000件以上の兵馬俑が並び、一人ひとりが異なるその表情は非常に興味深い。

徐州地区に位置する獅子山楚王陵は、その規模の大きさと文化財の保存状態の良さから、西漢時代の王陵の中でも最も重要なものである。この王陵からは金、銀、銅、鉄、玉、陶器など、2000点以上もの貴重な文化財が出土しまし、それら精巧な工芸品は、多くの称賛を集めている。

また、ここには「漢画像石文化体験」を楽しめる特別な博物館がある。展示品には車馬出行図や建築人物図、迎賓図など、約50個近くの漢画像石があり、内外の漢文化芸術の交流の拠点にもなっている。千古の漢の韻を探してみよう！

# 無形文化遺産に囲まれた多彩な江蘇生活



## 昆曲

中国の昆曲は600年以上前に蘇州で生まれた。昆曲はその独特な響きと優雅さから**「水磨腔」**と称されおり、世界三大演劇の起源の一つとなっている。2001年には国際連合教育科学文化機関によって「人類の口承及び無形遺産に関する傑作」として初めて登録された。昆曲は世界的な至宝の芸術で、江蘇省を訪れた際には必ず触れるべき文化の一つである。**日本の人間国宝である歌舞伎俳優、坂東玉三郎氏**も大の昆曲好きだったと言われている。

坂東玉三郎氏は蘇州で「牡丹亭」を観劇した際、昆曲特有の優雅で響き深い音楽に魅了され、昆曲の名家である張継青を師として仰ぎ、杜麗娘の役割を研究、その努力の結果として、非常に素晴らしい中日版「牡丹亭」を完成させた。

坂東玉三郎氏は中日合作版「牡丹亭」を企画し自ら主演をした。

蘇州庭園の魅力的な春景色を知らずにいれるだろうか。

**体験地**

江蘇省蘇州昆劇院（昆劇伝習所）：蘇州市姑蘇区校場橋路9号
中国昆曲博物館：蘇州市姑蘇区中張家巷14号
山塘評弾昆曲館：蘇州市姑蘇区山塘街45号2階
周庄古戯台：蘇州市昆山市周庄古鎮北市街1号

# 古琴

古琴は中国の伝統的な弦楽器で、3000年以上の歴史を持っている。2003年11月、中国の古琴は**「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」**に登録されている。その音域は広く、深みのある音色は、演奏が終わった後もゆったりとした心地よい響きを残す。また、古琴には**中国の礼楽思想**が蓄積されており、古代からの文人や士大夫たちが最も愛した楽器の一つでもある。

中国古琴の発展過程では、多くの流派が形成され、その大部分が江蘇省に由来している。揚州の広陵派、常熟の虞山派、南京の金陵派、鎮江や南通の梅庵派、そして蘇州の呉門派などがあり、彼らは今や中国古琴芸術の領域の半分を占める存在となっている。

これらの場所では、古琴の鑑賞や体験ができる！

体験地

中国古琴第一街：揚州市広陵区東関街道花局里35号
虞山派古琴芸術館：蘇州市常熟市虞山鎮南趙弄10号
金陵古琴館：南京市秦淮区烏衣巷1号王謝古居2階
梅庵派古琴芸術館：鎮江市京口区演軍巷15号

# 蘇州 端午の風習

5月5日は端午節で、中国と日本の両国で祝われているが、中国では旧暦の5月5日、日本では西暦の5月5日に行われている。みなさんは端午節をどうすごされているだろうか。蘇州では、端午節は年に一度最も盛大な民間の祝日の一つである。

蘇州の風習では端午節に、**粽（ちまき）**を食べる。他に「五黄宴」（黄魚、タウナギ、キュウリ、塩漬け鴨卵黄と雄黄酒）を味わったり、蘇州発祥である**ドラゴンボートレース**が行われたりする。また、端午節に香嚢を身につけるのも蘇州風習の一つで、香嚢の中には雄黄、蒼術、香草などの漢方薬が詰められており、薬用効果だけでなく、美しい装飾品としても楽しまれている。

体験地

周庄古鎮：蘇州市昆山市周庄鎮全福路43号

## 物語番外編：

言い伝えによれば、春秋末年の呉国と越国の戦争で、蘇州城を建てた伍子胥は冤罪により処刑され、その遺体は胥江に投げ捨てられた。蘇州の人々は彼の悲劇的な運命に悲しみを抱き、彼のために胥江のほとりに祠を建て、彼を江神、潮神、涛神として祀り、これが端午節となった。蘇州で端午節が賑やかなのは蘇州城の建設者を祀るお祭りだからである。

# 江蘇 織染刺繍技術

美しい服には、卓越した確かな工芸技術が不可欠である。江蘇の織染刺繍技術は、**紡績**、**染色**、**刺繍**といった要素から成り立ち、中国の蚕と桑の文化が長い年月をかけて築き上げた優れた技術だ。これらの技術は数千年にわたる発展の過程を経て、現在まで受け継がれている。

## 宋錦

**蘇州**で生産される宋錦は、経糸と緯糸を同時に使って花柄を織り出す織錦の一種である。この織物は織り技術が非常に緻密であり、素材は柔軟で強靭。また、柄は細かく繊細であり、上品な雰囲気と、宋代から伝統的に受け継がれてきた特徴や風格がある。宋錦は衣服だけでなく、書画や巻物の装飾にも広く使用されており、40種類以上の品種がある。

**体験地**

宋錦文化園：蘇州市呉江区北環路9号

## 緙絲

主に**蘇州**とその周辺地域で作られており、この織物の柄は表裏を問わず、柄の輪郭や色調の変化によって、織物の表面にはナイフで刻んだかのような彫刻効果が生まれる。現在では、日本でも帯や着物、僧の袈裟などを作るための貴重な生地として、緙絲が使用されることもある。

**体験地**

呉文化博物館：蘇州市呉中区滄台街9号

蘇州シルク博物館：蘇州市姑蘇区人民路2001号

# 雲錦

雲錦は**南京**で生産される有名な絹織物で、模様の色が雲のようになることで知られてる。この織物は皇室専用の贈り物として使われ、龍袍などの高級な織物に大量に用いられてきた。雲錦は中国の伝統的な錦織技術の最高水準を代表するものである。

**体験地**

江寧織造博物館：南京市玄武区長江路123号

南京雲錦博物館：南京市建邺区茶亭東街240号

南通

# 藍印花布

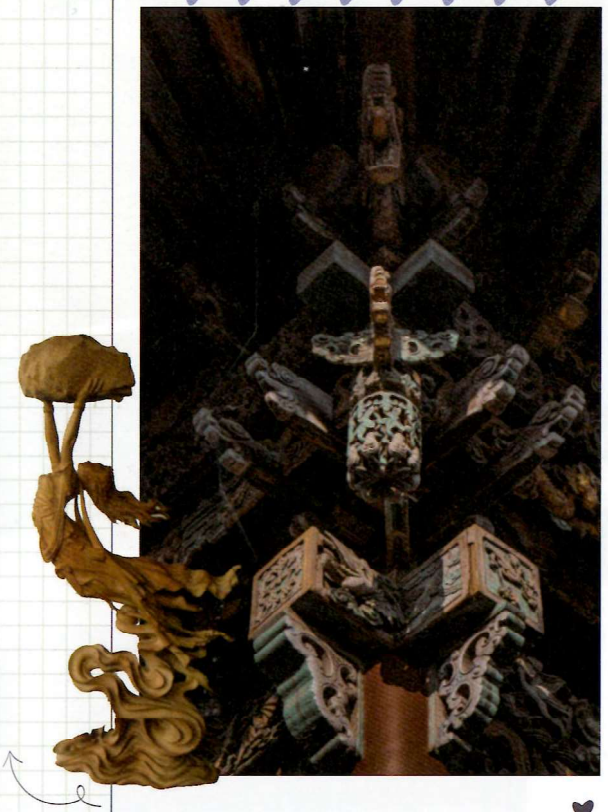
江南の古い町を散策すると、藍染めの服を着た女の子や、藍染めの布をかけた窓を見かける。その布は原始的な青と白の二色で、自然に生まれた模様が見られ、素朴で純粋な雰囲気がある。**南通**の藍染めはすべて手作業で紡績し、染められたもので、一般的に植物や花、動物の模様があり、長い間民間に伝わる吉祥な題材が中心となっている。これらの柄は農民たちの美しい生活への願いが表現されている。

**体験地**

南通藍印花布博物館：南通市崇川区濠東路81号

# 蘇州 香山帮 伝統建築造営技術

北京の故宮建築群の設計や蘇州庭園の建設、チベットのポタラ宮の修繕など、**香山帮**は**中国建築史上のスターチーム**であり、彼らは蘇州出身であった。このチームは大工や左官、彫刻職人、畳山職人、色絵職人など、様々な建築職種の人々が協力して作り上げる職人組織で、その複雑で繊細な伝統的な中国の建築技術で有名になった。彼らは海外に中国建築の美を広める役割を果たしている。



香山帮の建築美学を鑑賞し、理解するためには、蘇州の東山鎮にある**「江南第一楼」**として知られる**彫花楼**を訪れることをお勧めする。この建物は煉瓦、木材、石彫技術を組み合わせており"**彫刻の跡が至る所に見られる**"。この邸宅は蘇州における「香山帮古代建築」の貴重な作品でもある。

**体験地**

彫花楼：蘇州市呉中区東山鎮紫金路58号

揚州

# 彫版印刷

印刷の歴史において、「生きた化石」とも称される技術を知っている？それは**中国彫版印刷**であり、1300年以上の歴史を誇る。彫版印刷では、刃物を使って文字や図案を板に彫り、墨や紙、絹などの材料で刷り込み、冊頁や書籍として装丁する特殊な技術である。これは人類のコピー技術の先駆けとなる重要な存在となっている。

中国彫版印刷術の発祥地は揚州であり、**揚州広陵古籍刻印社**が古代の彫版印刷技術を保護している唯一の場所となっている。この場所で制作された彫版印刷の線装書は、かつて国の儀礼として日本やフランスなどに贈られたこともあった。

**揚州双博館**には彫版印刷の歴史が鮮明に刻まれている。博物館内には10万枚以上の彫版が所蔵されており、これらの板片を通じて、中国の彫刻や印刷技術の千年以上にわたる繁栄を感じることができる。さらに、彫版印刷を実際に手で体験し、古代の技術の神秘に触れることもできる。

**体験地**

広陵古籍刻印社：揚州市邗江区玉器街1号
揚州双博館：揚州市邗江区文昌西路468号

# 江蘇茶技術

一期一会、茶禅一味。茶道は日本において長い歴史を持つ伝統文化であるが、**中国の茶文化**の起源は紀元前2700年以上前の神農時代までさかのぼることができる。2022年11月、**中国の伝統製茶技術**が世界遺産登録の申請に成功し、江蘇省にある**3つの国家級無形文化遺産**プロジェクトへも共同参加している。

## 雨花茶製造技術

**体験地**

雨花茶文化園：
南京市溧水区晶橋鎮芮家村

**南京**を訪れると、ゆったりとした時間の中で温和で上品な**雨花茶**を味わうことができる。雨花茶は中国の十大銘茶の一つであり、中国の炒青類緑茶針形製造の先駆けとして知られ、中国の緑茶製造技術の最高水準を代表している。雨花茶の製造過程には、摘み取り、広げる、殺青、揉み込む、形を整えて乾燥させる、精製、焙煎などの工程が含まれており、製造された茶葉は細くて丸く、光沢があり、尖った形状は優雅で美しく、茶湯の色は明るく、茶の香りは爽やかで濃厚な味わいがある。

## 碧螺春製造技術

**体験地**

蘇州東山観光地：
蘇州市呉中区莫厘路近所

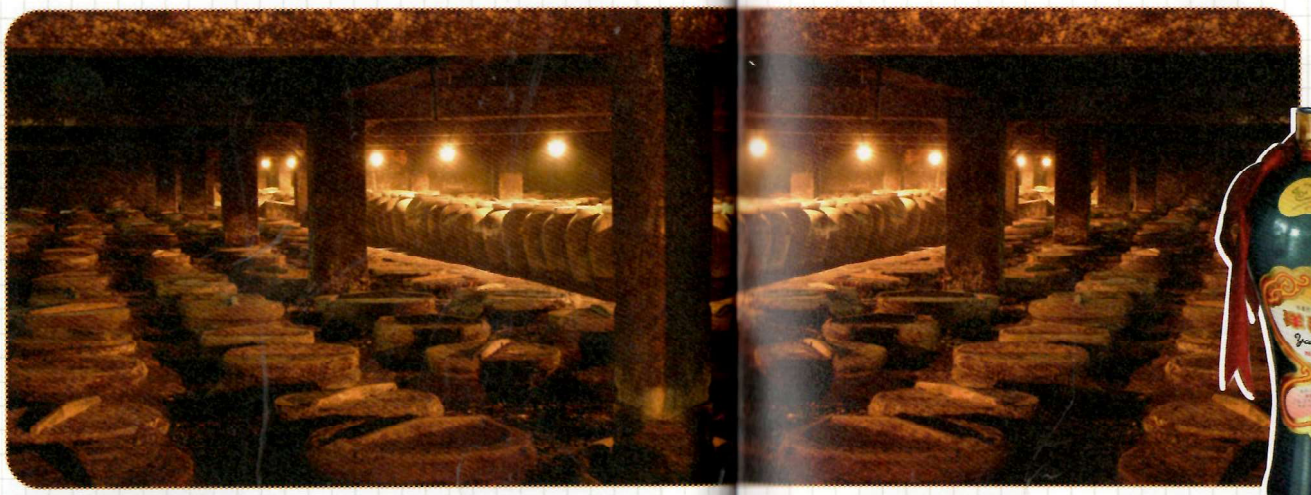
**蘇州**太湖洞庭山では、碧螺春の柔らかな甘さを堪能する事ができる。**碧螺春**は中国の四大銘茶の一つであり、摘み取り、選別、広げる、殺青、揉み込む、団にする、毫を立てる、乾燥など多くの工程を経て完成し、仕上がった碧螺春は美しい形状で、艶やかな色合い、濃厚な香りと芳醇な味わいが一体となっている。碧螺春を淹れる際には、まず沸騰したお湯を茶碗に注ぎ、しばらく待ってから茶葉を入れる。茶葉は碗の底に沈んだまま浮かび上がらない特徴を持っており、これこそが碧螺春の特徴となっている。

## 富春茶点製作技術

**体験地**

富春茶社：
揚州市広陵区国慶路勝橋35号

**揚州**は歴史と文化に彩られた名高い都市であり、国内外で評判の高い**富春茶点製作技術**を生み出した。1921年に誕生した**「魁龍珠」**というお茶は 、浙江の龍井茶や安徽の魁針茶、そして富春園で育まれた珠蘭をブレンドし、茶職人たちが丹精込めて香りを引き出している。また、「お取り寄せ」と言われる元来茶菓子であったものは、**三丁包、翡翠焼麦、千層油糕**などの定番から始まり、富春の「伝承は守旧ではない」という信念により、その後、料理や宴席へと発展してきた。



# 洋河酒
# 伝統醸造技術

宿遷は千年以上にわたる酒造りの歴史を誇り、「中国白酒の都」として称えられている。もし**国家級無形文化遺産**である洋河酒の伝統的な醸造技術を知りたいなら、**「国家級工業観光区」**である洋河酒工場文化観光区がお勧め。

洋河酒工場に足を踏み入れると、濃厚な酒の香りが空気中に漂う。醸造作業場では、醸造工程の流れを観察したり、労働者たちが手作業で酒瓶に酒を注いだりする様子を目にすることができる。また、そこで古代の醸造の伝統工芸を感じることもできる。

**洋河酒蔵**は、洋河酒文化の重要な代表地であり、業界では**「白酒の地下宮殿」**と称されている。ここでは、長い時間をかけて熟成された白酒の本格的な窖蔵の風味を楽しむことができる。また、洋河の酒造りの歴史も詳細に記録されているおり、とても見ごたえのある場所となっている。

**体験地**

洋河酒場文化観光区：
宿遷市宿城区洋河鎮中通り118号

「酢」を食べるのに段位があるとしたら、あなたは何段だろうか。

鎮江

# 恒順香酢醸造技術

中国の家庭料理にとって、**鎮江香酢**は欠かせない調味料と言え、鎮江の対外交流のための注目点でもある。

鎮江恒順香酢は1840年に創立され、中国四大名酢の一つとして知られている。酢は独自の醸造技術で作られており、固体成層発酵方法を採用している。そのため、「酸味がありながらも苦みを感じず、香りには甘みが広がり、色合いも濃く、味わいも豊かで、長期間保存するほど食感が良くなる」という特異な風味がある。

鎮江恒順香酢の魅力をより深く知るには、**中国鎮江酢文化博物館**を訪れることがおすすめ！この博物館では、鎮江香酢の起源や歴史の発展について詳しく学ぶことができる。また、酢職人たちが伝統的な酢造りの実演を行っている様子を目撃することができる。さらに、酢造りのプロセスを体験し、自分の肖像が印刷された商標を貼ることもできる。帰りには家に持ち帰り、ゆっくりと鎮江恒順香酢を味わおう。

**体験地**

中国鎮江酢文化博物館：
鎮江市丹徒区新城広園路60号

機会があれば、ぜひ鎮江恒順香酢を堪能してみよう！

## 付録

# 江蘇で物語がたくさんあり、あなたが発見するのを待っている

### 連雲港の西遊神話を探る

『西遊記』は中国で広く知られる神話物語であり、その中で描かれる主人公孫悟空の故郷は連雲港市の花果山に位置している。花果山は東側に黄海に近く、西側は平原に接しており、古代から「東海第一の名勝地」として称えられてきた。この山には奇岩や海の景観、古跡が点在し、美猴王の伝説的な物語はこの地に神秘的な雰囲気と仙術の要素を加えている。訪れると、雲海が一瞬現れては消える光景を眺めながら、小さな猿とのふれあいや自然の面白さを体験することができるだろう。

### 中国航海の第一人徐福

秦朝の有名な航海家であり、江蘇省連雲港出身の徐福は、約2200年以上前に中国の船団を率いて華夏文明と「福文化」をもたらし、中国大陸を発ち、朝鮮半島を経由して日本列島などに到着した。この航海は、クリストファー・コロンブスによる新しい航路の開拓よりも1700年以上も早い歴史的な旅であった。徐福の東渡は、中国の航海史と対外文化交流史における先駆的な出来事であり、東アジア文明史と世界文明史においても重要な貢献をした。

### 大明寺鑑真東渡

揚州の大明寺と言えば、中日文化交流に貢献した唐朝の高僧、鑑真和尚について触れざるを得ない。大明寺の住職であった鑑真和尚は、招待を受けて日本に仏教を広めるために6度の渡航を経て、命の危険を乗り越えて日本に到着。彼は日本で10年間を過ごし、中国の仏教や建築、彫刻、文学、医薬などを伝えた。彼の高潔な道徳と偉大な業績は、今もなお中日両国の友好と文化交流を促進する大きな原動力となっている。

### 阿倍仲麻呂北固山吟詠

唐代の隆盛期、阿倍仲麻呂は日本から中国に渡り、長安に入って唐の太学で学んだ。その後、進士の試験に合格し、王維や李白といった文人と深い交流を築き、鑑真大師と共に日本に向かう途中、船は夜に北固山のふもとで停泊し、満月の光に照らされた際に、彼は30年以上も帰国していない故郷を思いながら、「天の原、ふりさけ見れば、春日なる、三笠の山に出でし月かも」という有名な和歌を詠んだ。この詩は今では石碑に刻まれ、鎮江の北固山に立っている。

# 江蘇に来たら、食べなければならないグルメ

### 梅花糕

南京人の記憶には甘さが刻まれており、
それはまさに梅花糕である。

### 無錫小籠包

無錫小籠包は百年以上の歴史を持つ
名物料理である。

### 松鼠桂魚

甘酸っぱくて美味しい、松鼠桂魚は
蘇帮料理の代表的な一品で、色・香り・味の
三位一体を兼ね備えている。

### 陽澄湖大閘蟹

「蟹の中の王」として世界的に知られる
陽澄湖大閘蟹。

### 泰州早茶

伝統的な泰州早茶では「一茶三点一面」
と称されるお茶と共に食事を楽しむ。

### 揚州チャーハン

揚州を訪れたら、本場の
揚州チャーハンをぜひ味わってみよう！

### 鎮江肴肉

生姜の千切りと鎮江香酢を合わせると、
特別な風味が生まれる。

### 臭灶麺

美味しさの秘訣はスープにある。澄み
切ったスープには甘みも含まれており、
その中でさらにおいしさが広がる。



## Memo

## Memo

江蘇 有你会更美
Charm of Jiangsu
More beautiful with you

@Visit Jiangsu

ご覧いただきありがとうございます！